

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2016年度（後期）指定公募
「市民の集い開催への助成」
完了報告書

指定テーマ

「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に。

平成 29 年 4 月 23 日

長久手いのちの学校～世代を超えた「いのち」の授業

申請者：伊佐治知加子

所属機関：愛知たいようの杜 訪問看護ステーションふれあい

提出年月日：平成 29 年 5 月 31 日

<はじめに>

私が訪問看護師として勤務する長久手市は「住みよい市」全国第2位です。人口が増え続けており、平均寿命は全国平均より低い市です。しかし、超高齢化はやってきます。その際に必要となるのが、一般市民の医療や介護の使い方についての意識です。病院の病床数が相対的に不足する中、在宅医療を知っていることが、自分らしく生きる選択肢を増やし、在宅での最期を選んだ時に安心して過ごせると考えます。それは、訪問看護師として患者さんやご家族と身近に接する立場として日々感じています。ですから、この映画を、もっと多くの住民の方に見てもらいたいと切実に思っています。

今回の開催は平成29年4月23日でした。今までは、どんな人に見てもらいたいかわかっていませんでしたが、今回は、子どもも含めた家族で在宅での看取りや命の大切さを考える機会にしたいと思います。多くの家族に観賞してもらうことをねらいにして開催いたしました。

2025年を前に、相対的な医療福祉関係者のマンパワー不足は否めません。病院や施設が飽和状態になり、在宅医療・介護の使い方がますます難しくなると思われまます。専門職の力量も試されることとなりますが、患者力・家族力が課題になるのではないかと感じます。

本来、日本では家で家族が家族を看取ってきました。家での看取りが伝承されなくなった今、情報を共有し一人一人が考えること、それが患者力・家族力を高めることに繋がります。特に子どもたちは、人の死や病や老いに触れる機会が少なく、そのような社会背景が影響してか命の大切さを十分理解できていないのではないかとと思うような事件も見聞します。知識として学べば理解できるものではありません。リアルな体験から「気づく」ことに繋がると考えます。実際に介護などの機会が少ない中、映画は自分に置き換えて気づく機会になります。それが、命に寄り添う態度が育ち、在宅での看取り率を高めることになると信じています。

<映画「いきたひ～家族で看取る～」上映会とワークショップ>

映画の内容は、最愛のご主人（当時47歳）を癌で亡くした監督の介護記録を、子供達と相談し、死とは何かを伝えるドキュメンタリーとして多くの方に見てもらおうと決断し制作されたものです。監督は「ちゃんと看取ることが出来ると、旅立つ人との間に信頼関係が結ばれ、・・・むしろ、より深い絆となって、残された者に勇気や希望、安心感を与えてくれる。見取りで本当に救われるのは、看取った本人であろう。」と言います。その映画には、3人の子どもさんがいかに父親の看取りに立ち会ったのかが描かれています。子どもにとって、このような実体験は辛い気持ちもあると思いますが、家族を一番居たい場所で家族と一緒に過ごすことの自然なあり方を提案してくれています。それを受けて、映画を見た者は、自分のことのように感じるため、死について腑に落ちたとか看取り直しができたとおっしゃる方が多くいます。

小学3年生のお子さんが「死ぬのは怖くないっていうことと、姿はなくても繋がっているって映画だった」と話したり、「看取りについて改めて考えさせられた」「映画を見て在

宅で最期を迎えた方々からはマイナスイメージは感じられず驚きだった」などの感想がありました。明らかに、看取りや在宅医療、死に対する概念が変わる映画と言えます。また、今回は鑑賞後にワークショップを行います。映画が自分にとってどのような意味になったのか、他の人はどんな感想を抱いたのかなどを話し合います。この映画を鑑賞した人は、過去のアンケートからも自分の看取り体験を振り返り、他の人に伝えたい、そんな気持ちが沸き起こる映画です。ワークショップはその思いを共有するための時間とします。

最後は自宅で過ごしたいという人は 60%いると言われます。他の団体のアンケートでも、自宅 53.6%、病院 21.4%、施設 10.7%、その他 14.3%で、病院を希望する人もいます。しかし、病院を希望する人の多くは「家族に迷惑をかけたくない」という理由が最も多いのです。自分は自宅で過ごしたいと思っても家族を思うがために病院を希望する人がいるのです。しかし、病んで老いて治療が必要でない人にとって病院は苦痛そのものであることを一般の人は知りません。そして、自宅で過ごすことで家族が幸せを感じてくれることも知りません。そんな病院信仰・入院することが家族に負担をかけないという固定概念を、この映画は払拭してくれると信じています。

<研修会報告>

昨年 12 月、長久手ののちの学校実行委員会を立ち上げました。

長久手ののちの学校では、命の大切さを考える機会を創出する活動を行っています。

その名も～いのち織りなす今活プロジェクト～「長久手ののちの学校」

今回、学校設立記念講演として長谷川ひろ子監督「いきたひ～家族で看取る」長谷川監督講演会を企画実行しました。大人だけでなく親子 2 世代 3 世代で参加して家族で“生きること死ぬこと”を考えてほしい、そんな願いを込めワークショップを同時開催、教育共創家で実行委員メンバーの一人黒田氏にワークショップを依頼しました。

いままでこのような趣旨のタイトルは地域医療に携わる専門職が主催することが多かったのですが、「病気になり家族をどう支えるか？在宅で看取ること」は、一般市民の意識改革を子育て世代や看取り経験のある一般市民が中心になり企画することにより市民の生の声が地域医療者や病院関係者、行政に届くのではないかとということで逆転の発想で会を企画した。

上映会の宣伝として、インターネットラジオ「ゆめのたね」出演、ケーブルテレビ出演、中日新聞地域版や情報ボードに掲載していただくなど、マスメディアの協力が多数得られた。150 人の長久手市や近隣市町村から参加していただき、死生観を考えるきっかけづくりができた。

これを機会に一層、地域と積極的にかかわり、地域の方に喜んでいただける活動を行っていき、だれもが“看取りコンシェルジュ”になれる長久手市のまちづくりを行っていきます。今回は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成により、輝かしい一歩を踏み出すことができましたこと、心より感謝申し上げます。

「長久手いのちの学校」が開講

23日・福祉の家で映画上映、監督講演など

命の大切さについてみんなで考えるイベント「長久手いのちの学校」の第1弾が、長久手市福

祉の家2階集会室で23日に開催されます。午後1時〜4時30分。授業料”無料”。



監督の長谷川さん(左)と進行役を務める黒田さん

「自分らしく生きる人があふれる市」を目指す長久手市が後援する事業の一つ。

夫を4人の子供とともに自宅で看取(みと)った長谷川ひろ子さんが、その記録を残したドキュメンタリー映画「生死(いきたひ)〜家族で看取る〜」。今回はその上映会と、長谷川さんの講演後、参加者同士が交流

しながら共に考えるワークショップなどが行われます。

当日、進行役を務める黒田忠晃さんは「誕生から看取りまで、命に関わる幅広い世代の方が必要な知識を持ち、お互い助け合える社会になってほしい。命について一緒に考えましょう」と呼び掛けます。

申し込み、詳細はプログラムで(長久手いのちの学校)で検索。問い合わせは☎(76)3475黒田さん(月〜金曜日午前10時〜午後5時)。

4月23日(日) 長久手のいのちの学校「いきたひ」+ワーク スケジュール

時間	運行	内容	備考
	監督お迎え		伊佐治さん
10:00	早ミーティング		場所：長久手福祉会館 実行委員の活動記録として写真係を頼めないかな？
11:00	早ごはん		12:00 から会場って借りれてたよね？ 福祉会館さんへご挨拶
12:00	開錠 集合・打合せ	<実行委員>	振り返りの会日時は？ 財団に報告書を書かないといけないもんね。 Tシャツ
12:00	担当オリエンテーション	撮影：くろちゃん 三脚は借りる 監督対応：伊佐治さん お迎え 受付責任：リカさん、伊藤さん 参加者一覧はあいうえお順で4枚くらいに分け、空いてる人で受付対応 司会：くろちゃん 会場誘導：成山（階段下に位置） 物販出展者対応：伊佐治さん 会場設営監督：ちかちゃん、押谷さん	タイトルとか必要ですか？パワポで表示するようにする？ プロジェクターは借りれましたよね？ パソコンはくろちゃんのをを使う？ ワークショップを想定した会場レイアウトは、前もって紙に書いておいてね。受付はテーブル2台くらいでいいかも。→くろちゃん ピアノって大丈夫でしたっけ？ アンケートをいつのタイミングで渡す？回収箱用意します？
12:05	会場準備	レイアウト確認しながら全員で。	
12:30	受付開始		
13:00	開会	オリエンテーション（避難路・トイレ・携帯・出入り自由・子どもさんの対応・動画撮影同意・イベントシェアのルール） 挨拶（長久手のいのちの学校プロジェクトの活動について・次回について・連絡先窓口の案内）	
13:05	1時間目 映画上映会	長谷川監督	
14:40	放課	みやくそんさん、らふさんの紹介	
15:00	2時間目 ワークショップ	くろちゃん	
16:20	閉会の挨拶 アンケート	感想を 次回の案内	
17:00	片づけ終了 終わりの会		

<当日の流れ>

4月23日(日) 時間割

登校(12:30~13:00)

受付S T(13:00~13:05) 長久手いのちの学校とは 私たちの想いと授業の趣旨説明

1限(13:05~14:40) 映画「いきたひ(生死)~家族で看取る~」 & 講演 映画上映と長谷川ひろ子監督によるご講演

放課(14:40~15:00) 休憩時間 「いのち」を繋ぐ食の試食

2限(15:00~16:20) 「いのち」の授業ワークショップ みんなで「いのち」について考える

申込者年代

学生 (小学生~大学生)	24人
20代	1人
30代	9人
40代	28人
50代	15人
60代	7人
70代	7人
80代	0人
90代	1人

その他不明

2限「いのち」の授業ワークショップ みんなで「いのち」について考える

A) 1限の授業で、感じたこと、気づいたことは何ですか？

・いのちの大切さを改めて気づききっかけとなった

B) いのちの大切さを感じたときは、どんなときですか？

・周りの人が亡くなったとき

・自分が体調を崩したとき

C) どんな時に自分のいのちが喜びますか？

・自分が好きなことをしているとき

・好きなものを食べているとき

・自分の心に素直に従って動いているとき

D) あなたのいのちを今後どう役立てていきますか？

・自分のやれることをやっていく

・自分の得意なことをやっていく

・自分のやりたいことに気づけたので、それをやっていく

<参加者の感想>

・お蔭様でとても有意義な時間を過ごす事が出来ました事を心から感謝しております。 実は一昨年もう一人の姉を亡くしました。 その姉から譲って貰った洋服を着て、一緒に貴女に会いに行きました。 まだまだ心の整理がつかなくて、言葉には出す事が出来なくて一。 避けては通れない事だけに、死に関した事は、なかなか難しく思っていましたが一、少し 変わったのではと感じました。 本当に有難うございました。

・いのちの学校を開催していただきありがとうございました。

途中で退座してしまいましたが、胸に残る言葉をいただきました。

夏にあるサマーセミナーは、また映画を上映しますか？

友人に話したら観たいらしく。

私も子供を預け、話をゆっくり聞きたいな。

もしくは、子供向けの授業を一緒に聞きたいなあと感じました。

子供にはもう少し紐解いて授業をしてもらいたいなあとちょっと感じました。

・グループワークで、よりみなさまとの意見交換良かったです。

是非、この「いのちの学校」が続きますように・・・

また、お会いできること楽しみにしています。

・とてもいい会でした。ありがとうございました。

・ありがとうございました。

在宅看護について改めて考える機会をいただきました。

そしてこれからの生き方についても考えることができます。

自己肯定感を高め、後悔しない人生を歩んで行きたいし、子どもたちにも何が残せるか、未来に繋げる命のバトンの渡し方、受け取り方についても理解できました。

機会を与えてくださりありがとうございました。

また、私も総合計画審議委員として第 6 次の計画に関わらせていただいているので良い示唆をいただきました。やはり市民と共にこの計画が机上のものとならないようにしていくために…を考えないといけない気がしました。

長久手市は温かい街の印象を受けました。

これからの長久手「いのちの学校」の活動が楽しみです。

皆様のご活躍をお祈りしています。

ありがとうございました。

・今日は、とても充実した時間を本当にありがとうございました。元々私は命とか死とか看取りに興味があり柴田久美子さんの本も読ませてもらっていました。そして 10 年ほど前に

ヘルパーの資格を取り、8年前に実家で母と二人で実父を看取りました。初期の胃癌の手術から6年目の再発で見つかった時には癌性腹膜炎にまでなり治療は出来ないと言われ生きる気力を全く無くしてしまった父に何とか少しでも前向きになって欲しいと東京まで出向き丸山ワクチンを購入したり…もしましたが、わずか2ヶ月で亡くなりました。生前は高校教師として長年勤め、家には教え子や先生など常に人が集まる家で人と人の関わりをそれは大切にしていた父が治療が出来ないとわかった直後から教え子からの手紙に目を通す気力さえなくした姿を目の当たりに改めて命について考えさせられました。それ以来、もっとしてあげられた事があったのではと、どこか消化不良状態で過ごして来ました。今日、改めて命について考える機会を頂いた事をととても感謝しています。そして新たな目標を見つけました。エンゼルチーム登録しようと思います。本当にありがとうございました。次回の案内も楽しみにしています。

・母の生前、日進市で見たことのある自主制作の映画。

「母の死は家族で看取るぞ」とこの映画を見て心に念じました。

母は、施設でしたが、父も、大阪の姉「FaceTime」での中、主人、子どもらは、昼間13時だったので、出かけていて、間に合いませんでしたが、前日までに何度も、施設に足を運んでももらいました。

最期の最期は、「トイレ行ってくるからね。」と席を立った時、にだったので、本当の息を引き取る所は見れなかったけれど、それが、「母」なんだな。

「思いやり」の大きい人の「あかし」だな、と強く思ったことなどを、2回目の上映を見ながら、冒頭の場面から、涙が溢れ。

つけまつげは取れ、ぐしゃぐしゃでした。

自宅でなくても、施設でも、病院でも、最期を看取るということは、「いのち」を引き継ぐ人たちへの、「勉強」です。

本当なら子ども達に見せてあげたかった。夜中なら、呼んでいたと思います。

母が亡くなることを覚悟し、「亡くなってから」も悲しむこと、悔やむことも無く過ごせているのは、最期をこう言う形で看取れたからだと思っています。

「窯のひろば」でも上映会したいなあ…と長谷川さんに声をかけさせてもらいました。訪問看護師、伊佐治さんありがとうございます。

・以前の上映では抱いて送った人の話で眠ってしまいました。

お母さんの排便のお世話をして感謝が溢れたお話しは前回全然響きませんでした。今回はすごく共感しました。

前回、生死は暮らし。良く死ぬには良く生きること！と思い人生の最後をどう迎えたいのかを考えました。

今回は不安や怖れを白い紙に黒い点と表現された柴田さんの言葉が印象的でした。

知らないから怖い。

この映画が世に広がって生死感が変わってほしいと願います。

最後の方で旦那さんの電報。

光になりあなたの心臓とともに居ます。

の言葉に涙が・・・

亡くなるシーンのエネルギー熱もすごかったけれど、この言葉も熱かった。前回見てるのに自分の心に残ってないのも衝撃でした。

受けとる自分自身も変化しているのだと感じました。

「在宅医療」
知っていますか？
家で最期まで
療養したい人に。

長久手いのちの学校

～世代をこえた「いのち」の授業～

後援：長久手市 長久手市教育委員会

あなたは「いのち」の大切さについて考えたことはありますか？

誰一人として意味のない「いのち」はありません。しかし近年、頂いた「いのち」を粗末にする悲しいニュースをよく聞きます。

お互いの「いのち」を認め合い、大切にすることで、「いのち」の輝く社会に繋がっていくように感じます。

今回は、映画「生死（いきたひ）～家族で看取る～」の上映と、長谷川ひろ子監督のお話を交えながら、世代をこえて「いのち」についてみんなで考えます。ぜひご家族でご参加ください！

4/23(日)
13:00～16:30

特別講師 長谷川ひろ子氏 フリーアナウンサー シンガーソングライター 元日高市教育委員
健康体操教室スタジオMother's主宰 NPO法人日本サプリメント臨床研究会 代表理事



秋田県生まれ。地方局のアナウンサーを経て結婚。4児の母となる。2009年、夫(当時47歳)が癌で世界。家族とともに自宅で夫を看取った記録を映像に残す。死生観について考えて行く中で、看取り士・柴田久美子氏と出会い、人を看取ること、「いのち」の意味を問うドキュメンタリー映画「生死（いきたひ）～家族で看取る～」を自身で製作。全国各地で上映・講演活動を行っている。

ファシリテーター 黒田忠晃 共有共創家 La C Lo (ラクロ) 代表 NPO法人親育ネットワーク代表理事

「人生の目的を持った人たちが、主体的に行動し、自分らしく、楽しく、幸せを感じて自分の路を歩んでいる社会」を目指し、2009年より愛知県日進市にて子どもの指導に携わる。全国で講演・講座も行う。今年1月、長久手市生涯学習課「ながくて・学び・アイ講座」で「子ミュカUPでHAPPYママに!!」講座を開講。

授業日 4月23日(日) 13:00～16:30 (受付12:30～)

教室 長久手市福祉の家 2階集会室 (愛知県長久手市前熊下田171番地)
※「ござらっせ」が入っている建物です。

定員 100名

授業料 無料 ※今回の授業は、「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」の助成をいただいておりますので、「無料」でご参加いただけるようになりました。ありがとうございます。

授業内容・お申込方法等 詳細は裏面をご覧ください

長久手のいのちの学校 ~世代をこえた「いのち」の授業~

4月23日(日) 時間割

登校(12:30~13:00) 受付

授業料をお支払いください

S T(13:00~13:05) 長久手のいのちの学校プロジェクトとは

私たちの想いと授業の趣旨をお伝えします。

1限(13:05~14:40) 映画「生死(いきたひ)~家族で看取る~」&講演

映画上映と長谷川ひろ子監督によるご講演

放課(14:40~15:00) 休憩時間「いのち」を繋ぐ食の試食

当日のお楽しみ♪

2限(15:00~16:20) 「いのち」の授業ワークショップ

みんなで「いのち」について考えます

S T(16:20~16:30) 帰りの会

授業の振り返りと今後の活動をお伝えします

【校長からのお願い】

多くの方に出席していただきたい授業です。キャンセル待ちでお待ちになる方に空席のお知らせを順次行うためにも、お申込後、ご都合が悪くなられた場合は、欠席のご連絡をいただきますようお願いいたします。

「長久手のいのちの学校」とは

子どもからお年寄りまで、すべての長久手市民が「いのち」の大切さを考える機会を創出し、自分らしく生きる人があふれる長久手市にすることを目的として、今後、講座や講演活動、関連した事業を行って参ります。

私たちと一緒に「たつせのある」街づくりをしていきます。

教室 長久手市福祉の家 2階集会室

(愛知県長久手市前熊下田171番地)



※「ござらっせ」が入っている建物です。
 ※地下鉄東山線「藤が丘駅」から、名鉄バス「瀬戸駅前(岩作経由)・菱野団地・長久手福祉の家」行き「長久手福祉の家」下車リニモに乗り、「公園西」下車 徒歩約20分「ござらっせ」までの無料シャトルバス
 ※バス(長久手市コミュニティバス)福祉の家線・三ヶ峯線・北部線・東部線「福祉の家」下車 ※駐車場もございます

申込方法 **ココチーズ・Facebookイベントページ・メール・FAXにて**
 ※「お名前・ご住所(市町村まで)・電話番号・メールアドレス・年代(学年)」をご記入ください。
 ※いただいた個人情報は、長久手のいのちの学校のイベント等のご案内・ご連絡に使用させていただきます。



申込フォーム(ココチーズ)

FAX 020-4666-9366 メール **nagakute.inochi@gmail.com**

◎ FAXの場合は、以下をご記入いただき、お送りください。(この用紙で3名まで申込が可能です)

お名前(フリガナ)	ご住所(市町村まで) 都・道・府・県 市・町・村	電話番号(携帯も可)
メールアドレス	年代(学年)	

お名前(フリガナ)	ご住所(市町村まで) 都・道・府・県 市・町・村	電話番号(携帯も可)
メールアドレス	年代(学年)	

お名前(フリガナ)	ご住所(市町村まで) 都・道・府・県 市・町・村	電話番号(携帯も可)
メールアドレス	年代(学年)	

イベントに関する
お問い合わせ

長久手のいのちの学校プロジェクト 担当：黒田

TEL : 0561-76-3475 (月~金 : 10:00~17:00) FAX : 020-4666-9366

メール : nagakute.inochi@gmail.com